

平成 29 年度

1 自己評価及び外部評価結果

事業所名：はとおかざきグループホーム長寿園

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390600286		
法人名	サン・ミルク株式会社		
事業所名	はとおかざきグループホーム長寿園		
所在地	北上市鳩岡崎3-32-1		
自己評価作成日	平成 29年 12月 1日	評価結果市町村受理日	平成30年3月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&ji_gyosyoCd=0390600286-00&PrEfCd=03&VerSiOnCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 29年 12月 15日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

家庭的な雰囲気を大切にしながら入居者の方の意向を尊重し、安心安全に過ごしていただけるようにしています。職員主体ではなく入居者の方お一人お一人の能力に合わせ、出かけることは行ってもらい、日常の中に役割を持ってハリと楽しみを感じて生活していただけるように心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

道路に面して敷地が広く、周りは静かな住宅が立ち並んでいる。職員の家が駐車場の向かい側にあり、畑の一部を、畑作りをしたい利用者のために借りて野菜作りをしている。利用者は皆自分の出来ることは自分でやり、洗濯物は自分で居室に干している。地元住民の交流の場として毎月開いている「ポッポサロン」は好評で地域の一人暮らしの方や介護の相談をしたい方などが訪れ、お茶を飲みながら様々な話に花が咲き、認知症の理解にもつながっている。職員は協力して利用者の残存能力を大切にしながら意向や特徴を考えて接し、管理者も避難訓練への協力のお願いに手紙を携え各戸を回るなど、努力を惜しんでいない。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

[評価機関:特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会]

事業所名：はとおかざきグループホーム長寿園

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	既存の事業所の理念を職員全員で見直し、自分たちの望む理念も同じであると考え実践している。玄関、事務所に掲示しており、職員が自然と目にし意識付けしやすいようにしている。さらに職員会議などの機会に唱和し確認している。	事業所の理念を基本理念とし、「ご本人の意思を最優先」し野菜作りをしたい利用者のためには農家の畑を借り、また「地域の役に立てる施設」として、近隣の方に毎週ボランティアとして来てもらい安否確認に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	サロンに参加された方が当日グループホームを見学したいとお話があった。グループホームに関して質問などを受けたり入居者の皆さんとも交流ができた。また非難訓練に地域の方の協力を得る事が出来た。	地域包括支援センターの協力で「ポップサロン」を毎月開催している。地域住民のコミュニケーションの場にもしようと、参加した方にチラシを配り地域の皆さんに案内している。近隣の保育園とも交流がある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通し、認知症の症状や行動についてお話し、認知の方への理解を深めていただいている。地域で認知症の方への対応の仕方や家族へのかかわり方について参考になったと言っていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではグループホームでの様子や行事内容、ヒヤリハットの事例などを報告している。直近の会議では不審者に対する対応、施錠等についての報告をしアドバイスを頂いた。	運営推進会議は、家族代表のほか、区長、自治会長、民生児童委員、市担当課職員、駐在所の署員で構成され、ヒヤリハットや行事、利用者の交通事故防止などについて活発に話し合っている。駐在所署員や市からの意見があり、不審者対策のため日中も施錠する事になった。老人クラブの代表者の委員委嘱を計画している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括支援センターの協力を得て「サロン」を開催できている。月に1度1時間ほど地域の方とお茶を飲みながら、おしゃべりや歌、頭の体操などを通して交流や地域の様子を知る事が出来た。	運営推進会議に、市の担当課の職員が委員として出席している。また要介護区分の変更申請や行事の案内のため、毎月のように市の窓口に出向き、情報交換するなど連携を密にしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所で身体拘束の勉強会を開催し身体拘束とはどのような行為か職員が理解し身体拘束は行わないケアに努めている。不審者進入ということもあり市からの見解をいただき防犯目的で10月下旬から玄関に鍵をかけるようにしている。	年に1回身体拘束についての勉強会を行っている。スピーチロックや拘束してはいけないことなど、ケアをしながら直接教えている。自ら離脱しようとする方は今はいない。何度かベッド脇に倒れる方がいて、寝具等に鈴を付けて対応した。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部で研修が開催されるときは可能な限り参加出来る様にし、事業所でも勉強会を行っている。また朝礼などでもニュースに取り上げられている介護施設での虐待について話題を取り上げるなどして虐待防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在該当する入居者がいない。必要性のあるときには制度について学ぶ機会を持ちそれらの活用を出来る様にしたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	現在契約の経験はないが、契約時は条文を読んで話し合いやすい雰囲気を大切にしながらゆっくり丁寧に説明し理解していただけるようにしたい。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	話しやすい雰囲気を作りながら面会時や電話で家族の要望を伺い運営に生かせるようにしている。「出かけることはして欲しい」「外出するので準備をして欲しい」「選挙に行きたいといったら連れて行って欲しい」などの要望があった。	面会時や電話で要望を聞く際には、話し易い雰囲気で本人・家族が考える要望や意見を聴く様にしている。具体的な希望が出た際は職員で共有し運営に生かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	曜日ごとに入浴して頂く入居者様の人数と職員の業務の流れについての意見や、休憩時間について、意見があり職員全員に意見を聞き取り職員会議で決定しスムーズに業務が出来る様に改善し反映が出来た。	施設長は月1回、管理者は普段から職員と様々なことを話し合っている。職員の意見から、入浴日について、支援の必要な利用者と自分で出来る利用者を分けることで、業務を効率的に行うことができるようになったり、職員の休憩時間の見直しを図れている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が意欲を持って健康に働けるように勤務形態はなるべく負担の少ないように考慮している。また資格取得により給与水準へ反映させ向上心を持って働けるような体制している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、動きながらトレーニングしていくことを進めている	職員会議などにあわせ毎月勉強会を行っている。勉強会は毎回テーマを決めて介護等に関する知識を学んでもらえるように取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同じブロックのグループホームの研修にできる限り参加しお互いの運営などについて情報交換など行う機会を持つようになっている。また同法人内のグループホームの様子など交流する機会が出来た。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	言葉、表情、行動、雰囲気から不安に感じている事があればすぐに気づけるように耳を傾け安心して生活が出来る様に支援に努めている。食事を摂れなくなった方に常に職員が寄り添うことで、食事を摂れる様になり、元気に過ごす事が出来た。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、心配な事などについてお話を伺い理解し、解決出来る様に努めている。家族と折り合いが悪かったがグループホームに入居することで家族との関係も少しずつ修復する事ができ家族から感謝の言葉をかけていただいた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	現在どのようなことで困っているか、どのような支援を必要としているか傾聴し他の必要とされるサービスへ繋げられるような対応に努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出きることは積極的に行っていたが、出来ないところの部分はお手伝いするように努めている。洗濯物干し、たたみ方、食器拭き、居室の整理整頓など行っていたいいる。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月に1回グループホームでの様子がわかる写真付きの広報やお手紙を出したり、何かあれば電話や面会時に様子をお伝えしている。体調不良などで家族に連絡するとすぐに受診に連れて行ってくださるなどの協力を得られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と一緒に日帰り温泉や外出、買い物に出かけたり自宅へ外泊されるなどしている。お盆には家族とお墓参りに出かける方もいる。自宅にいた頃の近所の方が面会に来られお茶を飲みながら談笑されている。	昔の歌の仲間や妹、孫が訪問している。通院のときに息子と外食を楽しんだり、正月には1～2泊の外泊をしたり、お盆の墓参り、妹との温泉行きを楽しんだりしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	皆でカルタやしりとり、歌、手作り写真フレーム作成など自然に交流が深められるような場を設けている。誕生日には誕生会を開き皆さんからお祝いの言葉を頂いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、いつでも相談援助に乗る事が出来ること、気軽に立ち寄っていただけるようにお話をすることとしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族からどのような暮らしを望んでいるか伺いできるだけ自分らしく生活できるように勤めている。また普段の会話や介護を通して要望を聞き日常生活のケアに生かすようにしている。	普段の表情や動作、家族の要望から、洗濯物干し、洋服の着替え準備、食器拭きなど自分らしく生活できるよう得意なお手伝いなどを把握し、日常の支援に生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	その方の生活歴や暮らし方を本人、家族、周りの方々からお聴きし、今までの生活スタイルを大きく変えることなく、なるべく継続できるような支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の中で何をしたいかを把握しながら自由に過ごせるようにしていただいている。ご自分の趣味をお部屋でゆっくりされる方、皆と一緒に作品づくりに夢中になられる方、賑やかに過ごされたいときはお話を通して楽しめるように配慮している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族からどのような暮らしをしたいかをお聴きしながら、会議などで職員からよりよいケアをするための意見を取り入れ、検討を行いプランに盛り込んでいる。計画の変更が必要かどうか月に一度は見直しをしている。	職員会議で各担当はケアでの気付きを話し、それに応じ見直しが必要な場合は計画作成担当者が変更を行っている。体調を崩し多くのケアが必要だった利用者について、家族等とよく話し合い、職員の努力で手を掛けて丁寧に接したところもとのケアに戻った例もある。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	1日の言動や行動、行ったケアなどを個別に記録し、その場にいなかった職員含め全員が把握出来る様にしている。薬の変更時や体調不良が見られるなどの記録をもとに周知しケアにあたっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族が都合で受診に連れて行けないときなどは、代わりに職員がお連れすることもある。遠方でなかなか面会にこれない家族の代わりに日用品等をこちらで用意して欲しいなど、その時々ニーズに対応出来る様に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に地区の駐在所の方へ出席していただいて地域の安全な暮らしについてお話を伺った。また区長、自治会長、民生委員の方に不審者などの情報を伺い安全な暮らしが出来る様に努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族様のご希望で6名の方が訪問診療を、3名の方は以前から通っていたかかりつけ医を利用している。どちらも受診の際はグループホームの様子をお伝えし、適切な診断をしていただけるように努めている。	以前からのかかりつけ医の受診は、家族同行を基本としているが、家族が出来ないときは職員が対応している。普段の様子や医師の指導等は関係者で共有している。定期的な訪問診療や、訪問歯科診療を必要時に利用している方もいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常の些細な変化なども報告してもらい、医療機関や看護師に伝えて速やかに適切な処置をしていただけるように努めている。入浴の際の身体の観察を行い変化に気づき受診に結びつけている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院の際は医療機関へグループホームでの生活状況、身体状況をお伝えしている。退院の際は病院での状況を教えていただき情報交換をすることでスムーズな退院ができるようにしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合グループホームで出ることと出来ないことのお話をしている。また最期はどの場所で過ごしたいかなどもご家族と話し合い方向性を共有している。ご本人や家族が希望すれば最期までグループホームで過ごしていただけるように支援している。	看取りの指針はまだ作成していないが、家族、利用者の希望で、訪問看護師、協力医との連携のもと、今年11月末に看取りを行っている。他の利用者に動揺等はなかった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者が急変したとき、転倒、発熱などの対応を職員で確認している。職員の緊急連絡網なども準備して緊急時に職員がすぐに対応出来る様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署立会の下、災害を想定した避難訓練を行っている。地域の方にも避難訓練に参加協力をしていただいた。2回目の避難訓練では夜間想定で夜勤者一人に対応する訓練を行った。	年2回避難訓練を行っている。夜勤者一人に対応する夜間想定訓練も行っている。避難訓練に際し、管理者が手紙を携え住民に協力をお願いに回り、3名の方に協力をいただいた。今後は、地元消防団との協定締結を考えている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩という敬意を持ち、馴れ馴れしい態度や言葉遣いを慎むよう努めている。トイレ誘導等はプライバシーに配慮しそっと行うようにしている。居室に入るときはノックをしたり、本人に承諾を得て入室している。	利用者は若い職員を孫だと思って接してくれている。利用者みんなを名前で呼ぶが、嫌がる利用者はなく、コミュニケーションが図られている。会議では利用者に気を使いながら名前等は小声で話すようにしている。入室は必ずノックし、トイレ誘導もさりげなく行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人に日常生活の希望を伺うようにしている。「散歩に行きたい」と希望がある時は職員と一緒に出かけている。「歌いたい。」という時はカラオケで歌って頂いている。またご近所の畑を借り野菜を育てる事が出来た。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな生活の流れの時間はあるが本人の希望に添って支援している。趣味のクロスワードに居室で集中して取り組んだり、毎日の日課でラジオ体操、歩行運動を行っているが部屋で過ごされる方もいる。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の着替えの服は職員が見守りながらご本人を選んで頂いている。また入浴後お化粧をされる方や季節に合わせての洋服のアドバイスをしたりするなど心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	その方の能力に合わせ可能な範囲で調理などに参加していただいている。食後には食器拭きなどを手伝っていただいている。	食材の買出しに入居者の状態により可能な限り出かけている。調理は職員が交代で行い、残されたおかずを見て嫌いなものや食事の量の把握を行っている。利用者の能力に合わせて、干し柿、水木団子作りやお盆拭き等を手伝ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分量は把握出来る様にその都度記録し、不足のないように心がけている。咀嚼や飲み込みが弱い方には軟らかめにして、刻みなどで対応している。アレルギーのある方には配慮し別の食材に替えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後は声がけをして口腔ケアをして頂くようにしている。入れ歯を外して洗っていただき口腔内に残渣物がないようにしていただいている。訪問歯科診療の先生に来ていただく予定をしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の記録を見ながら排泄パターンを把握し時間を見てトイレの声をかけをしたり、一人で行けない方には定期的にトイレで排泄出来る様にしている。残存能力に合わせ自分でズボンをあげていただく事がある。	トイレでの排泄が出来るように支援している。布パンツ4人、リハビリパンツ4人で定期的に声をかけをしてトイレ誘導する利用者もいるが、自分からトイレに行く利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	なるべく薬に頼らず自然な排便が出来る様に肉魚野菜とバランスの良いメニューを心がけ、納豆やヨーグルト、牛乳、乳酸菌飲料などを取り入れている。水分補給や毎日体を動かす時間を設けるなど排便を意識している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	午後から2時から入浴を行っている。入浴パターンがあるが別の曜日が良いという方は今のところいない。入浴の声をかけをし今のところ毎回入浴していただいている。入浴剤の希望があれば使用することもある。	入浴は毎日対応し、毎日足浴をしている方もいる。入浴を拒否する利用者はいない。見守りにより入浴可能だが、手の届かない背中や、洗髪については一部介助している。好みの入浴剤で入浴を楽しんでいる利用者もいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	希望されれば食後に昼寝をして頂き身体を休めて頂いている。居室でのお昼寝が落ちつかなく自席で居眠りをされる方もいる。夜間に安心して眠って頂けるよう居室の温度や、布団の調整などにも気を配るようにしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に関する内容はお薬手帳や処方箋を確認して把握している。また薬剤師からも薬の特徴、飲み方、副作用等の指導を頂いている。新しい薬の追加や変更になったときは副作用等の症状の変化に注意している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コーヒーの好きな方には起床後やおやつの時間に飲んで頂いている。柿が実る時期は皆さんに柿の皮むきをして干し柿づくりを行った。チラシを利用してゴミ箱作りにも励んでいる。歌の好きな方はカラオケを楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	桜の季節には桜を見にドライブをする事が出来た。また近くにある保育園の運動会への参加やお誕生日会へのお誘いがあり歩いて保育園に行く事が出来るとも喜ばれ笑顔が見られた。	桜を観に展勝地までドライブに出掛けたり、近くの保育園から運動会や夕涼み会、誕生会のお誘いがあり参加している。日常的にはホームの周りの散歩や畑の見回りをし、車椅子の方は庭に出て隣の方(近所の方)と話をしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の使い方や管理が可能な方は所持されている。欲しいものがある時はその中から支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人が電話をしたいと希望があれば職員が手伝いながら電話をかけたたり取りついたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居心地よく感じられるようにテラスの窓から自然な光を取り入、景色を眺める事が出来る様になっている。観葉植物を備えて自然を感じていただけるようにしている。新聞の時事関連に触れてもらっている。空気の流れ替えなども行い温度や湿度にも注意を払っている。	玄関を入ると共用スペースがあり、天井が高く広々と感じられるスペースにはテレビの前に食堂テーブルが置かれ、南に面した大きな窓からは明るい日差しが差し込んでいる。塗り絵や観葉植物、利用者の手作りの作品など飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	皆でにぎやかにテレビを観たりお喋りを楽しむ空間と、窓際で外の景色を眺めながらそっと一人の時間を過ごせる空間をもうけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	介護用ベッドのみ備え付けているが、寝具類やタンスなど自宅で使い慣れたものを持って来て頂いている。カップや湯のみ、箸等は自宅で使い慣れたものを使用している方もいる。	介護用ベッドのみが備え付けて、テレビ、タンス、フティックハンガー、テーブル、寝具類等を持参し思い思いに配置して安心な居室となっている。状態に合わせて寝具を布団としている部屋もある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下や浴室、トイレなどには手すりやパーを備え付け、それを利用しながらできるだけ自立した動きが出来る様にさせていただいている。トイレなどには大きく明示し迷わず行けるようにしている。		